

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	中国山東省における高校教師の進路指導方針について：PAC分析を用いた中日比較
Author(s)	青木, 多寿子; 許, 暁
Citation	学習開発学研究, 13 : 135 - 140
Issue Date	2021-03-30
DOI	
Self DOI	10.15027/50815
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050815
Right	Copyright (c) 2021 広島大学大学院人間社会科学研究科学習開発学領域
Relation	



【資料】

中国山東省における高校教師の進路指導方針について

—PAC 分析を用いた中日比較—

青木多寿子¹・許 暁²

(2020年11月30日受理)

A Personal Attitude Construct (PAC) Analysis of Teachers' Recognition of the Need for Student Career Guidance Counseling at a High School in Shandong Province

Tazuko AOKI and Xiao XU

I 問題と目的

「2017年全国教育事业发展统计公报」(中华人民共和国教育部, 2018a)によると, 全国各種類の高等教育在学学生は3779万人になっており, 2016年より80万人増加した。また, 高等教育入学率は45.7%に達し, 去年より3%上がった。全国の高等教育機関は2880校となり, 去年より28校増えたという。「2017年度普通高等学校本科专业备案和审批结果」(中华人民共和国教育部, 2018b)によると, 全国で大学の専攻は2016年より2311専攻増えた。以上のことから, 近年, 中国の大学数, 大学の専攻数は増加し, 大学進学率も上昇しているということがわかった。

一方, 進路指導が十分に行われていないという現状もみられる。例えば, 中国の学生は自分の学んだ専攻を活かして, 卒業後どのような仕事が出来たかを十分には理解していない。また, 自分の専攻が合わないから専攻に関する仕事はしたくないという学生も増えている。「2018年中国大学生就业报告」(王・马, 2018)によると, 2017年に大学卒業生の就職と専攻の相関度は66%である。専攻と関係ない仕事を選ぶ理由として, 「仕事は自分の期待に合わない(36%)」があげられる。こうした現状は進路指導の不足が1つの要因だと考えられる。

加えて, 近年中国の試験募集制度(日本での大学入試センター試験)も大きく変化した。「国务院关于深化考试招生制度改革实施意见」(中国国务院, 2014)によると, 2020年までに, 中国各省の試験募集制度は元々の文系と理系で試験を受ける制度から「3+3制度」(主要3教科(中国語・数学・外国語)+選択3科目(政治・地理・歴史・物理・化学・生物))になるという。これは科目の組み合わせが多様になる改革であり, 科目の選択が生徒の将来の職業につながることを考えると, 生徒たちが将来の職業を見据えて自分に合う科目を正確に選択させる教育が必要になる。つまり, 高校での進路指導に関する授業の整備は極めて重要な喫緊の課題であるといえる。

これに関し, 山東省教育庁は2017年に「关于做好普通高中学生发展指导工作的意见」を出し, 「生徒発展指導課程」は山東省の高校必修科目として登場した。具体的な内容は①自我認知指導, ②授業選択指導, ③職業体験, ④専攻選択指導の4単位である(高校の総単位は144単位)(山東省教育庁, 2017)。この科目の目標は, 生徒に職業体験をさせることを通して, 経済, 社会の動向を知らせ, 職務内容・発展過程・業界の見通しを理解させるとしている。また, 生徒自身に合う職業を探させ, 自分に合うキャリアを形成させるといえる。以上のことから, 現在, 中国は進路指導の重要性に気付き, これの整備に取り組んでいるといえる。

一方, 日本では中国より早く進路指導が行われており, その範囲は小学校から大学までの広範囲にわたる。その意義につ

¹ 岡山大学大学院教育学研究科, ² 威海市正大学校

いて花屋(2012)は、①生き方の指導・援助、②育てる課程としての指導・援助、③具体的・現実的な理解を進める指導・援助、④自己決定能力を中核とする指導・援助、⑤教育活動全体に意識される指導・援助、⑥地域社会の教育資源を必要とする指導・援助の6つの意味をあげている。このように、進路指導は自己の個性について理解を深め、多様な進路方向の中から適切に進路を選択し、選択進路に抵抗し、自己実現を達成してゆくことに必要な力を伸ばすことが本来の目的である。他方で、実際には教師が生徒にとって最適な選択肢を選び、その選択を進めるような進路指導が行われがちであるとの反省から1999年中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」で「キャリア教育」という用語が初めて登場した(文部科学省, 1999)。

キャリア教育の目的は職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成である。また、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(中央教育審議会, 2011)では、キャリア教育で育成すべき力として「基礎的・汎用的能力」という言葉を出した。具体的な内容としては、キャリア教育を通して生徒たちの「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己理解能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育成することを求めることとされている。

日本では、進路面談の方法に関する研究もある。森本・青木(2013)は、日本の高校における進路指導の中核となる進路面談に注目し、PAC分析を用いてベテラン教師の指導力の研究を行っている。これによると、日本のベテラン教師の進路面談に対する自己イメージは非常に肯定的であり、進路面談全体を規定する方針、つまり①主人公は生徒、②「はっきり伝える」こと、③「具体的なイメージを生徒に伝えること」との指針をもって面談に臨んでいることがわかった。加えて、森本・青木(2013)では、教師に親近感をもつ生徒と、教師と疎遠な生徒2人を対象に、どのような進路面談を望むのかをPAC分析で分析した結果、両者とも「はっきり言ってほしい」「三者面談ではなく二者面談で」と望んでいることがわかった。つまり、心理的離乳期にあり、アイデンティティの確立を模索する青年期においては、教師に写る自らの姿を伝えてもらうことで、自己像をより明確化したいとの気持ちの表れではないかと考察できる。これらの結果から、進路面談が上手な教師と生徒の望む進路面談の方針は一致していることが示唆されたといえよう。

他方で、中国山東省では現在、進路指導に関する授業はしていない高校が多い状況である。このような状況を踏まえ、進路指導に対し、政府、学校、家庭、地域からどのように協力するかについて研究がされている。しかし、進路指導の授業はしていない学校が多いという状況から、ベテラン教師は教科指導については経験が豊富であるため自信を持っていると考えられるが、進路指導には自信を持っていないことが予測できる。その上、中国の高校教師の進路指導に関する先行研究はほとんどない。そこで、本研究では、森本・青木(2013)と同じ方法を用い、中国山東省の高校ベテラン教師の進路面談に対する指導方針や不安や気がかりを分析し、日本のベテラン教師の結果と比較することを目的とする。

II 方法

研究協力者

山東省の進学校に勤務する20年以上経験があるベテラン教師二人。協力してくださったのは、第二著者の元担任と、その教師が紹介してくださったベテランの教師である。

PAC分析の概要

森本・青木(2013)と同じ方法を用いた。つまり、内藤(1993)によって開発された、個人の態度構造やイメージを測定するためのPAC分析を、森本・青木(2013)と同じ手続きを用いて実施した。PAC分析とは、質的研究法と量的研究法を混合させたもので、個人の内面の構造を明らかに出来る特徴がある。インタビューの手続きは次の通りである。

- ①当該テーマに関する自由連想を行うため、研究協力者はカードに連想した単語や文を記入していく。
- ②連想項目間の類似度評定として、研究協力者は記入したカードを重要度順に並べ替えて番号をつける。
- ③各々のカードについて、ポジティブ・中性・ネガティブの中からイメージ評定をする。さらに全てのカードペアにおいて、関連性の程度を0(関連性がない)～10(関連性が強い)で評定する。
- ④類似度距離行列によるクラスター分析を行う。研究者は類似度評定をもとにクラスター分析を行い、デンドログラムを作成する。

⑤教師によるクラスター構造のイメージや解釈の報告を行う。デンドログラムをもとに、第二著者と教師は、対話をしながら各クラスターの解釈を詳細に行う。

提示刺激

面談で意見を求める提示刺激文は、日本と比較できるように森本・青木（2013）を採用し、中国語に訳した。具体的には「あなたは、生徒との進路面談で、どんなことが気がかりになったり不安になったりしますか。また、自信を持っていることはどのようなことでしょうか。そして、生徒はあなたのことをどのように見ていると感じていますか。ここに浮かんできたイメージや言葉を、思い浮かんだ順に番号をつけてカードに記入してください。」である。

使用分析ソフト

HAD16, PAC-Assist2+を用いた。

Ⅲ 結果

上記手続き②の重要度は、Figure 1, 2 のデンドログラム内の項目の先頭の数字で示した（1が最重要）。手続きの③については、デンドログラム内の括弧の中に、+はポジティブイメージ項目、-はネガティブイメージ項目、0は中性的なイメージとして記載した。上記④のデンドログラムは図として示した。上記の⑤の教師がデンドログラムを解釈した結果は、デンドログラムの名前として図に示した。なお、この解釈の際の発話は録音してテープ起こしをした。以下に、教師がクラスターを解釈する際の発話の一部を示す。その際、図を指で示す等、言葉に表れない部分は（ ）の中に記載した。

ベテラン教師1について (Figure 1)

2つのクラスターが得られた。クラスター1は「進路指導と大学専攻のつながり」、クラスター2は「社会のニーズと人のつながり」と教師によって命名された。各クラスターのイメージを見ると、クラスター1はすべてマイナスイメージであることがわかる。つまり、ベテラン教師Aは、「進路指導と大学専攻のつながり」について、不安や気がかりを感じていることがうかがえる。クラスター2のイメージは、すべてポジティブである。このことから、「社会のニーズと人のつながり」については、自信を持っていることがわかる。

以下に、手続き②の重要度順のうち、ネガティブな項目のうち、重要度の高い順に教師の発話を紹介する。

項目1：（「教師として正確に学生の能力と発展方向を把握できない」については、）教師として各生徒の能力と将来の発展方向は違うということはわかるが、実は正確にこれを把握することはできません。専門的な知識がないので、自分の心の下のイメージが曖昧で、細かいことを生徒に話す勇気がありません。自信がないんです。

項目2：（「教師として進路指導に関する知識の欠乏」については、）私が進路指導に対して具体的なやり方がわからないということは自覚しています。しかし、これがわかっても、教師自身で進路指導に関することを勉強することも、学校から指導を受けることもなかなかできません。

項目3：（「大学の専攻と就職に関する知識の欠乏」については）インターネット上には同じような専攻が色々あります。でも私は専攻の具体的な内容はわかりません。生徒にどうやって説明すればいいのかわからない。そして、学生が卒業したあとの仕事と専攻はそんなに関係がある訳ではありません。

ベテラン教師1の気がかりや不安について

前述のように、クラスター1の各連想項目のイメージをみると、教師1は進路指導に関する項目はネガティブのイメージを持っている。教師として、生徒の個人差は把握できないこと、進路指導の方法と習得の方法がわからないこと、大学の専攻について詳しくないことに不安を持っており、進路面談には自信がないことがわかった。他方でクラスター2の社会のニーズや勉強に関することには自信を持っている。ここにベテランとしての経験が反映されているようだ。しかし、重要度の順で見ると上位にネガティブなイメージが多いことから、中国の急激な高等教育環境の変化に対応し切れていない不安が垣間見られることがうかがえた。

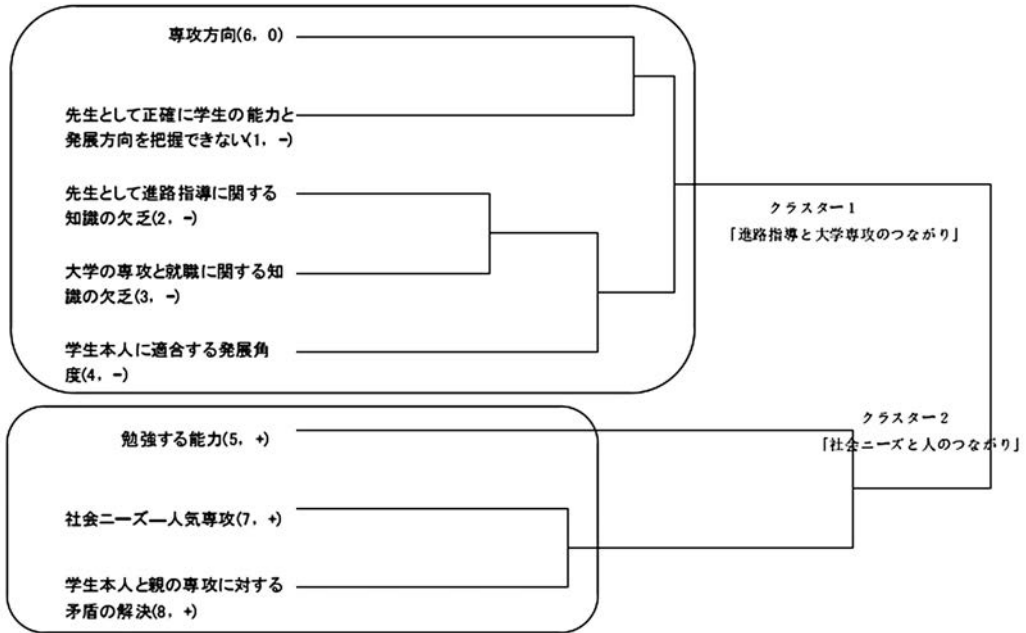


Figure 1 ベテラン教師1のデンドログラム
 * () 数値は重要順位。+はポジティブ、-はネガティブ、0は中性的。

ベテラン教師2について (Figure 2)

2つのクラスターが得られた。クラスター1は「先輩の経験を参考にしながら、自分の特徴に合わせて計画を立てる」、クラスター2は「人生成功の要因」と教師によって命名された。各クラスターのイメージを見ると、ほとんどの項目についてポジティブであり、教師2は進路面談に不安や気がかりをあまり感じていないことがうかがえた。唯一、不安を感じたのは、項目5であった。これに関する教師の発話を以下に紹介する。

項目5：センター試験の得点で大学を決めるサポートは自信をもっていますが、今の各大学の各専攻が今後どう発展するかわかりません。これは今の高校に原因があると思います。今の高校は、やはり成績が主な目的です。だから、高校の教師は学力をつけることに力を注ぐので、学校外のことはあまり知らないんです。知っているのは生活しているこの町だけです。他の地域で必要な職業についてはわかりません。また、自分で積極的にこれについて勉強する熱意もないので、自信がないです。

ベテラン教師2の気がかりや不安について

前述のように、ベテラン教師2は「+」が多く、進路面談に自信をもっている。プラスでないのは項目5だけで、しかも「ゼロ」であったので、不安や気がかりはない。しかし、この項目の発話を見ると、前述の教師1と同じように、大学の専攻、その専攻の将来性については知識が乏しく、自信がないことがうかがえる。つまり、この教師の自信は、学力を上げることへの自信であり、学力が高ければ社会で適応できるという信念への自信であることがうかがえる。しかし、このように自信を持っているこの教師も、ベテラン教師1と同じように、大学の専攻、その専攻の将来性については知識が乏しく、自信がないことがうかがえる。

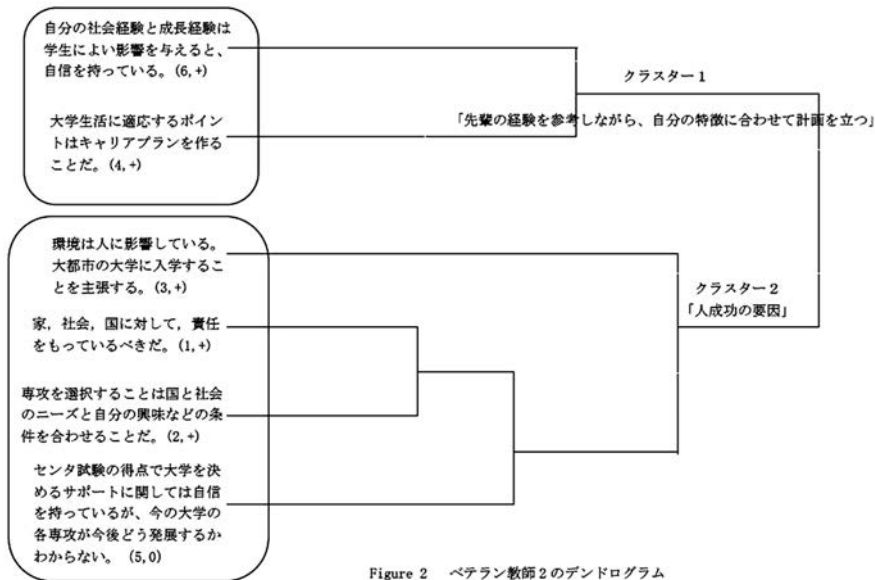


Figure 2 ベテラン教師2のデンドログラム

* () 数値は重要順位。+ はポジティブ、- はネガティブ、0 は中性的。

IV 考察

現在の中国では、学生達が自分の学んだ専攻を活かして、卒業後どのような仕事出来るかを十分には理解していないことが問題となっており、政府も対応措置を取ろうとしている。この背景には、新設大学や新設学部の急増もあるし、大学入試制度改革による進路指導の変化もある。これらの急激な変化の中で、教師達も社会の変化に十分に対応できておらず、教師経験が数十年の教師であっても、急増する大学の専攻や新しい専攻に関する知識に自信が持てずに気がかりや不安を持っていることがわかった。

これに関して、日本の高校教師を対象に、進路面談の不安や気がかりを調べた森本・青木(2013)では、ベテラン教師の不安は、「生徒に100%頼られてしまうと心配。自分もすべてわかるわけではない」という項目のみで見られた。つまり、新設大学の増加、社会の変化による新設学部への対応等については不安を持っていないようだ。

これに関して、日本では、現代の中国ほど高等教育機関が次々と作られていないことも一つの要因かもしれないが、その他の要因も考えられる。例えば、日本の高校生の周りには、塾や予備校、通信添削機関、模試の会社による情報提供等、多種多様な教育に関わる機関があり、それらの機関から、情報を入手することが可能である。他方で中国は、塾や予備校がないため、高校生達は高校教師から大学や進学の情報を得るしかない状況にある。日本の高校教師は、進路の情報提供に関しては、生徒に他の機関を活用させることができるので、教師と生徒の進路面談に関しては、生徒に頼られすぎないように配慮しながら、生徒自身が自分の適性に合わせて自己決定することを支援できるのかもしれない。他方で中国では、高校生は早朝から深夜まで毎日学校に滞在している。つまり、大学の情報は、教師を通してしか生徒に届かない。このことから、教師は自分の知識の少なさに一抹の不安を覚えるのかもしれないといえよう。

近年、中国の政府は進路指導に関して、様々な施策を打ち出し、キャリア教育や進路指導の充実を強調している。しかし、学校現場で、進路指導を担当する高校教師への直接的な研修の機会が少ない。高校の進路指導を充実するために、学校の生徒へのキャリアに関する授業の充実だけでなく、生徒に直接関わる教師への指導も不可欠ではないだろうか。

引用文献

- 中华人民共和国教育部 (2018a). 2017 年全国教育事业发展统计公报
(http://www.edu.cn/zhong_guo_jiao_yu/jiao_yu_bu/xin_wen_dong_tai/201807/t20180720_1617944.shtml)(2018年11月25日取得)
- 中华人民共和国教育部 (2018b). 2017 年度普通高等学校本科专业备案和审批结果
(http://news.ifeng.com/a/20180627/58901593_0.shtml)(2018年11月26日取得)
- 中国国务院 (2014). 国务院关于深化考试招生制度改革的实施意见
(http://www.gov.cn/zhengce/content/2014-09/04/content_9065.htm)(2018年11月25日取得)
- 中央教育審議会答申 (2011). 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
- 文部科学省 (1999). 初等中等教育と高等教育との接続の改善について (答申)
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_chukyo_index/toushin/1309737.htm) (2018年11月20日取得)
- 花屋哲郎 (2012). 進路指導の意義と課題 「教職シリーズ7 進路指導」新井邦二郎(編) 培風館
- 森本篤・青木多寿子 (2013). 高校の進路面談で必要とされる教師の指導力—PAC(個人別態度構造)分析による進学校のベテラン教師と初任者の比較— キャリア教育研究. 第32巻第1号, 15-20.
- 内藤哲雄 (2009). PAC 分析実施法入門[改訂版]:「個」を科学する新技法への招待 ナカニシヤ出版, 15-27.
- 王伯庆・马妍 (2018). 2018 年中国大学生就业报告
(<https://chassc.ssap.com.cn/c/2018-06-28/550719.shtml>)(2018年11月25日取得)
- 山东省教育厅 (2017). 关于做好普通高中学生发展指导工作的意见
(<https://gaokao.chsi.com.cn/gkxx/zc/ss/201708/20170825/1626423378.html>)(2018年11月21日取得)